

市長記者会見記録

日時：2018年 4月3日（火）14時00分～14時30分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<内容>

《新年度を迎えた所感について①》

司会： ただいまより市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。

早速、質疑に入らせていただきますが、進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いいたします。

幹事社： よろしくお祈りします。

市長： よろしくお祈りします。

幹事社： 早速お尋ねしたいんですけども、新年度が始まりまして、2期総合計画ですとか、10年戦略がいよいよスタートということになったわけですけども、新年度を迎えたことに当たっての市長のお気持ちをお尋ねしたいというのが1点。

それと、市を取り巻く課題というのはたくさんあると思います。例えば、高齢化ですとか子育て環境のこと、あと防災対策、そういったこと、いろんなことがあると思うんですけども、どんなことに一番強く問題意識を持って対応していきたいのかということですか、それを解決するに当たっての市長の前向きなお気持ちをひとつお話しいただきたいなと思います。

市長： 昨日、新たな副市長2名を加えて新体制で始まったということで、人事異動も、例年に比べると、大体同じだと思うんですけども、特別職は一気にかわるという部分もあって、挨拶の中でも、それから今日も特別職の会議をやりましたけれども、改めて、私を含めた、しっかりとしたチーム力というものを最大限に発揮するために、意思疎通というものを緊密にやっというところを確認し合いました。

今、市政の課題というのはたくさんあるわけですけども、その中でも重要なことをお互い列挙し合って、そしてみんなで、担当の副市長だから、担当以外だから関係ないという話ではなくて、私と3人の副市長、この4人でしっかりと連携をとって、一つ一つ課題に取り組んでいこうということと、それから、やはり今年の年頭の挨拶で言ったように、スピード感を持って取り組んでいくために、これまでの意思決定のプロセスというのも少し見直しをして、トライ・アンド・エラーでいろいろやっ

こうということで始まりました。

総合計画第2期実施計画というものの初年度になりますので、そういった意味で、初年度だからこそ、しっかりまず一步を着実に踏み出すということが大事でありますので、新体制になったからといって、推進力として弱まることのないように頑張っていきたいなと思っています。

それから、市政の課題というのでは、ほんとうに大きなご質問ですけれども、特に人口が増えている、待機児童対策含めて、若い世代が増えているということもあって、それに対する人口増に伴う施策の充実というものと、今言っていただきました高齢化というのが着実に、急速に進みますから、そういった意味での予防的な取り組みというか、データヘルス計画など、しっかりエビデンスベースドというか、感覚ではなくて、ちゃんとデータに基づいた分析と対策というものをしっかり行っていくことが、将来の社会福祉費関係の上昇を抑制していく取り組みというのを、危機感を持って今やらないと、県内で高齢化率が一番低いんだとかということで余裕な対応をしていますと大変なことになると思っていますので、そのあたりを両方バランスよくやっていきたいと思っています。以上です。

幹事社： ちょっと旧年度の話に戻っちゃうかもしれませんが、今までもおっしゃっていると思いますが、今度、副市長もがらっとかわられて、その辺の人事の意図とか、新体制にかける期待も含めて説明していただければと思うんですが。

市長： ちょっとお答えが繰り返になってしまうかもしれませんが、やはりさまざまな課題がある中で、チーム力というものを重視した人事になって、特別職もそうですし、局長級も部長級もそういうふうに見てきたつもりであります。

昨日、新しく入庁した職員にも言ったんですが、それぞれの組織の最大化、力の発揮をするためには、それぞれの持っている力、個人の力というのを最大限に使って、引き出して、それを組織的に使うということが最も大事なことでありますから、皆さん、やはり能力の高い人たちばかりですから、それをうまく連携、融合させるということが大事だと思って、それぞれ任命したということでございます。よろしいでしょうか。

幹事社： はい。

《元神奈川県知事・岡崎洋氏について②》

記者： 岡崎元知事が亡くなられて、昨日がお通夜で今日告別式、私も昔、県庁記者クラブでちょっと担当したこともあったので行ってきたんですけれども、市長は松沢

さんという岡崎さんの後に知事になられた、もとで秘書もやられて、その後県議になられてという、県政も見ながら、今に至るとのことだと思っただけですけれども、岡崎さんの、亡くなった人の評価というのなかなか言いにくい部分もあるかもしれないですけれども、非常に堅実だという評価もあれば、当時よく言われたのは、ちょっと地味で発信力がなかったんじゃないかみたいなことがあって、それで松沢さんもそういったものを感じながら県政運営をやったという、何かそんな流れもあったと思うんですけれども、その一連の、市長としては今、首長という立場になられて、常に発信とか、アピール力が問われるみたいな場面が多々あると思うんですけれども、いろいろ考えさせられる部分というのは日々あると思うんですが、そういうものを含めて、岡崎さんの評価と言うと変ですけれども、どんなふうに、亡くなられたということを受けとめて、どんなふうな評価をされているのかなというものをちょっと聞かせていただければと思ったんですけど。

市長： 私が県会議員時代もやはり岡崎元知事の評価というのは大変高くて、非常に堅実な県政をやられたということと同時に、非常に苦勞された、県政課題の、財政難の状況でもありましたし、行革もほんとうに厳しくやらなくちゃいけなかったり、そういう時代背景に非常に求められた知事だったと思っています。

私もまだ議員でもないころに一度だけお会いしたことがありますけれども、非常に真摯な方で物腰のやわらかい、でも筋の通った方だなという、さすが知事なんだなと、当時、私はほんとうに議員でも何でもなかった時代でありますから、非常にそういう印象を持っております。神奈川県としては、すばらしい知事だったのではないかなというふうに思っています。

記者： 同じ首長の立場では、思うところというところは何かございますか。参考になるというか、いろんな首長さんを見てこられていると思うんですけど、岡崎さんのいいところ悪いところ含めて、そういう行政運営に対して、自分の中で何か。

市長： やっぱり非常に飾らなかった方だという印象が強くありますので、逆に、そういうものがよくないんだ、アピール力というものと裏返しなんだと言われる方もいらっしゃるかもしれませんが、私は、そういった飾らない方というのは、とても個人的には大好きですし、そういう方だったというふうに思います。自分も、アピールしなくちゃいけないところはアピールしなくてははいけませんけれども、自然体で飾らずにやっていきたいなと思っています。

記者： ありがとうございます。

《武蔵小杉駅混雑対策について③》

記者： 武蔵小杉駅の南武線の拡幅工事並びに新しいホームの設置の工事が終わって、今、供用が始まっております。まず、そのことに関して、市長の所感を1つお願いします。

市長： 着実に混雑緩和の取り組みというのは、少しずつですけれども、着実に進んでいるということに大変うれしく思いますし、JR含めた関係者のご努力に感謝申し上げたいと思っています。まだ抜本的な解決にはまだまだ時間もかかるとは思いますが、着実に進んでいることに対して、非常に歓迎したいと思っています。

記者： 今年度の組織改正で対策専門部署の設置などがありました。そこで、市長が今考える武蔵小杉駅周辺の課題というのを改めて教えてもらってよろしいでしょうか。今現在の。

市長： それは駅の話ですか。

記者： 駅ですね、はい。

市長： もう駅は、課題は混雑対策にほかならないと思いますので、安全対策もろもろ、ホームドア設置含めて、そういったところにまだ課題は残っていますので、引き続き、やらなければならないことというのはわかっているわけで、それをどうやってスケジュールの中に落としていくか、やっていただくかということを含めていく作業というのはこれからなので、全力を挙げて頑張っていきたいと思っています。

《小田周辺地区の不燃化対策について④》

記者： 南武支線沿線のまちづくり方針の策定がこの前発表されたんですけども、そこで小田地区の木造住宅の、燃えないように、不燃化というのを推進していると思うんですけども、あの地区に木造の建物が密集しているという状況について、どのような対策を講じていかなければいけないかということをお聞かせをお願いします。

市長： 不燃化対策、小田栄、小田地区のあたりというのは、さまざまな対策を講じていますが、非常に高齢化している地域でもあって、なかなか建てかえだとかということが進まない難しさもあります。ですから、不燃化対策、さまざまな取り組みを進める一方で、もう少し大きな絵を描かなくちゃいけないのではないかと考えています。具体的話というのはこれからになりますけれども、地道な取り組みと同時に、あのエリアというのは、まだまだ将来的にポテンシャルがあるところだと思っていますので、少しロングスパンで考えなくちゃいけないかと考えています。

記者： 国費と市費を使って、建てかえなり助成も行っていますよね。100万円、

200万円なり、そういった金額、最大金額を設けて。そこでも、やはり高齢者が多いと、お金をかけてもなかなか難しいなという実感というのは、やっぱり市長には今あるところですかね。

市長： すごく思います。それは、小田地区の、いわゆる木密のところの対策だけじゃなくて、例えば耐震対策、耐震の補助みたいな形でやっても、これは地区にかかわりなく、やはり高齢者のお宅というのは、ちょっとそこに投資しなくてもいいかなという、むしろやっていただきたいところがやる気にならないというのが一番の問題で、そこは地道な啓発ということに取り組まないといけないなと思っていて、これも地道ですけれども、やっていくしかないなと思っています。

記者： 市の中の計画として、10年間で木造住宅の燃えないようにするための推進というのを、30%、木造住宅を不燃化していきたいという試算があると伺ったんですけれども、そこに関しては、市長はその数字は妥当だと思いますか、それとも、ちょっと低いなと思いますか。そういった所感というのを教えていただけると。

市長： 私どもで30%という目標を掲げているので、それは妥当な数字としてお示し、それに向かって努力するという事だと思っておりますが、非常にハードルがそれでも高いというふうに思っていますし、頑張らなくちゃなと思っています。

記者： ありがとうございます。

《保育所の入所状況について⑤》

記者： 保育施設への入居、受け入れ状況についてお伺いします。4月になりまして、毎年4月を起点に、いわゆる認可保育園と、あと川崎市の認定保育園等々で受け入れて、全体状況を発表されていくのかと思います。1、2月での1次申し込み時点では、3割ぐらいが、新聞の表現的に言うと落選になっている中で、市役所としてどういう対策を進めていくかというところがまた肝になってくるかと思うんですが、全体としての受け入れ見通しみたいなものというのは、何か今、見えているところはあるんでしょうか。数字的なもので。

市長： 数字的なものは、今最終的な精査をしているところだと思いますので、発表までもうしばらくお待ちいただきたいと思うんですが、4月1日を越えても、今、職員がアフターフォローで対応してやっていますので、丁寧な対応をしていきたい。今、現在進行形でやっているところですので、ちょっと数字と見込みについては、もう少しお待ちいただければと思います。

記者： 毎年のように分母が増えています。要は、申し込む数が増えている中で、例

えば、今時点で前年の波が見えつつあるかとか、何か厳しいものがあるかとか、そういうのもまだこれからなんですか。

市長： そうですね、これからということ。

記者： あと、もう一点、質問差し上げます。昨年、ちょっと私もわかっていないんですが、保育施設を受け入れるために容積率の緩和を今年度から始め、多分、武蔵小杉駅周辺のことを念頭に、公の空間も中に取り込んで、それで保育事業者をマンション等々に呼び込みたいという制度が今年度から始まるというふうに聞きました。現時点で何かめどがあるかというのと、ちょっと意気込みをいただいてもあれなんですかけれども、どのようなPRポイントで、今年度もしくは今年度以降、呼び込みたいと考えていらっしゃるのかお伺いしたい。

市長： 具体的な、この物件でという話は、まだ私は報告受けていないので、現在、進行しているのかも含めてちょっと確認ができておりませんので、確認したいと思いますが、要は、あの基準をつくったときにも、開発事業者の皆さんからも相当ヒアリングをして、やはり事業者にとっても、やってみようという数値じゃないと、実際、つくったもののやらないということになってはいけませんので、そういった意味で、ある程度実効性のあるものだと考えております。そういった意味で、事業者の皆さんにしっかりとこのことを伝えていくというか、皆さんご存じだとは思いますが、改めてそういう理解を求めていくという取り組みに努めていきたいと思っています。

記者： わかりました。ありがとうございました。

《元神奈川県知事・岡崎洋氏について②関連》

記者： すいません、ちょっと確認なんですけれども、先ほど市長が議員になる前に岡崎元知事とお会いしたというの、これは松沢衆議院議員の秘書をされているときということですか。

市長： そうです。

記者： わかりました。

《市行政監査結果について⑥》

記者： 先日、市の監査委員のほうで、AEDの管理、非常によく調べたなという中身だったと思うんですけれども、別に川崎市に限らない問題だと思うんですけど、ちょっと管理に不備というか不適切というか、きちっと管理されていなかったという中身だと思うんですけれども、統一的なマニュアルをつくって、いろいろ寄贈されたも

のとか、リースの、もろもろ雑多なものが入ってきて、今、数は増えているという状況だと思うんですけど、何か統一的なマニュアルをつくるべきじゃないかという指摘もされていて、ごもつともだなという感じはしたんですけども、その辺で、今後どういうふうな、ああいうものを受け取って、市長としてどういうふうハンドリングしていこうかということをお考えでしょうか。

市長： それぞれの設置管理者によって対応がばらばらになっているところがあるので、しっかりと整理できる所をちゃんと統一的なルールのもとにやっていかなくちゃいけないなということと、それから、やはり屋外での設置というものをどうやって工夫するかなというのは、それはいたずらだとか盗難だとかというものと、実際に屋外でスポーツなんかをやっているときに必要となる場合が多いということでありますから、そのバランスが非常に難しいなと思っています。

一部、私も最初聞いて、南京錠の話というのはびっくりして、えっと思ったんですが、よくよく話を聞いてみますと、あれは教育委員会、学校の施設でありましたけれども、監査委員に、担当者がちゃんといなくてお伝えできなかったという部分もあって、監査委員からの指摘というのは少し、認識にちょっと誤解があるかなと思っています。

実際は、利用団体の皆さんにもちゃんと鍵を渡し、そこに立ち会う人たちにも鍵を渡しと、常に、瞬時に開錠できるような体制を整えていてと。ゆえに、屋外にあるものであったのでということで、そのあたりは監査委員に、報告書の前にちゃんと説明すべきなんじゃないのみたいな話は、結局反映されずに監査の報告が出ているので、「うん？」という。それは、定例局長会議の中でもいろんな議論が沸きました。

ただ、これは統一的なマニュアルというか、ルールづくりというのはやって、やや無駄が削減できる場所もあるという指摘は、まさにごもつともだなというところもありますので、そういう改善はしっかりやっていきたいと。AEDに限らず、やはり一事が万事的なことで、こういったことがほかにもないかということ常を常に目を配っていきたくと思っていますし。

記者： 先ほどの南京錠の部分というのは、鍵を渡している。今、その形なら問題ないだろうということですか。

市長： そうです。要するに、夜間開放だとかというとき、校庭開放なんかをするときも、その日に使う人たちに必ず……。

記者： 渡して。

市長： 渡してという形でやっているし、学校側のほうも持っているしという形で、

常に現場で、すぐに対応できるような状況にしてあると。ですから、鍵がかかっていたことが問題という、そこだけをとってやるというのは、ちょっとナンセンスかなという話が議論の中でありました。

記者： ちなみに、何で報告が行かなかったんですか。行政、監査委員会に報告書をまとめる上で、その辺のヒアリングというのは。

市長： その話も議論としてありましたけれども、なぜそういう齟齬があったのかということで、今後そういうことがないようにという話はいたしましたけれども。

記者： 監査委員のヒアリングをしていないということ？

市長： いやいや、ヒアリングをしたときに、その事情をよくわかっている学校の担当者が、あるいは教育委員会の担当がいなくて、ちゃんと正しい情報が伝わっていなかったということらしいです。

記者： それはそれでまた問題ですよ。

市長： それもまたちょっとお粗末な話なんですけどね。

記者： そうすると、監査の意味がなくなってしまうですよ。

市長： 今回の全体の監査としては、大変いいご指摘をいただいたと思っています。ただ、やや、僕も見た瞬間に、監査の報告を受けた瞬間、何だこれ、とんでもないと思っていた感覚と、やはり、実態を聞いてみると、あ、そうではなかったのねというところに乖離があるかなと。

記者： そこに注目して、記事も、報道もなりますので。

市長： なりますよね、当然なると思います。

記者： そこがちょっと課題ですね。監査の実を上げるためには、もうちょっと丁寧な対応をしたほうがいいですね。

市長： そうですね。

記者： わかりました。ありがとうございます。

記者： ちょっと細かい点、今のお話なんですけれども、AEDの性質を考えたときに、施錠されていて、すぐに開錠ができるということは物理的にわかるんですけれども、ただ、やはり例えば1秒でも早くという処置が必要なものであることを考えたら、施錠していること自体はいかがなものなんだろうか。その後の後遺症の話とかにもつながってきますし、そこは、市長としては妥当だというふうにお考えですか。

市長： 現状の状態、外に置いてあるものですから、あそこの学校の場合はですね、それ自体が適切だと思います。学校内の中で施錠しているところがあって、そもそもそこにとりに行けないというよりも、外にあるほうがいいに決まっていると。いいに

決まっているんだけど、じゃあ、先ほど申し上げたように、常に施錠していない状況でどういのが一番いいのかなど。盗難だとか、いたずらだとかというおそれがあるから、じゃあ、中に持っていきましょう、それだと意味がないですよと。

ですから、鍵がかかっている、鍵がかかっていないということよりも、ちゃんと使える状況にあるのかということのほうが、より重視されるべきなのではないかと思っています。ですから、確かに防犯カメラみたいなのが置いてあるところにAEDがあるというのであれば、そういったものがなくなるのかもしれませんが、必ずしも学校施設だとか、いろんなどころに防犯カメラが設置しているわけではないので、その中で最もスピーディーに対応できるということを考えて、そのような対応をとっているという説明には、私は説得力のある回答かと思いました。

記者： わかりました。

《ヘイトスピーチ関係について⑦》

記者： 先月末にヘイトスピーチのガイドラインが施行になりました。並びに、第三者機関もその翌日に設置が正式になりましたけれども、ガイドラインの施行になったことについて、改めて市長の思いと、あと第三者機関に期待なさいたいこと、それから、ちょっと毎度になってしまうんですけども、条例化のスケジュール感について、お話を頂戴できればと思います。

市長： まず、ガイドラインができたということで、これが適切に運用されていくということが大事だと思うのと同時に、そういった対象案件が出てこないということが最も望ましい姿なので、そういう案件が出てこないことを願っています。万が一、出てきた場合には適切に執行していくということだと思います。

第三者機関で部会もできましたし、素晴らしい方々に、専門的知識を持った方々になっていただいたと思っていますので、期待したいなと思っています。

条例については、言っていることですが、ヘイトスピーチに特化したものではなく、人権全般にわたっての条例づくりというものを、基礎調査、現在進めているところですので、時期的なものというのは、現在まだ申し上げる段階にはないんですが。

記者： ありがとうございます。

幹事社： ほかはよろしいでしょうか。なければ、はい。

司会： それでは、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。どうもありがとうございました。

-
- ・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。
 - ・《市行政監査結果について⑥》について、記者会見後に、屋外に設置されたAEDの南京錠の鍵の管理については、施設利用者に鍵を渡していることも含めて監査委員に説明しており、その上で監査結果が取りまとめられたことを確認しました。

併せて、市長に対して、この間、教育委員会事務局及び監査事務局から詳細な報告がされていなかったことも確認されましたので、お詫びするとともに訂正をさせていただきます。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当
電話番号：044(200)2355